

# プロレタリア通信

共産主義者同盟社編

東京都文京区  
元町1-10-7  
世界労研会付  
(03) 5939  
59. 10. 22  
No. 22

非常勤斗争の大般闘にあたって全労オ争レハニレシ

## 全進歩組の前田洋介者の仕務

二一日、中野の三人の労働者が逮捕された。

六日に非常勤労者石原さんの首切りを、青野部がとり

あげて、独自の救援活動を行ひ、医療費とクビキソ金回を

要求して斗いを起したからはじめた全進東京の非常勤斗

争は東大院階に達した。

今、非常勤労者たる、井込の非常勤の専従権カク得の斗

と共に大暴行を犯す廣となり、全国的抗議となり、ハンド

ていた。

東京地区でもやつと取上げ、全労の計じにしたる状態が

見之よつとしていた。

九月のはじめの物だから、今にいたるまで、郵政省、

警察省の派遣、十月は停職を最高とする大量懲戒、町内会

の組合による「過失」の切くすしをかけなどして、中野牛込

だからにや旨正、いよいよの可憐をアッサドン、非常勤

の争いが全労へ、全國へ、全労労者へ反する」とおおい

われば、その活動について、全労のための甲傷が行

われ、まだ現れ、が、全進のこういふ組合の外か

うとしているのだ。  
中野をつぶし、それから井込を。これが当面の筋  
の想いだ。  
これに対して全進の斗争力にて強力な反撃を加え  
らせるだけまだ遙かにいゆい。  
練馬、小石川、足立、石神井、荒川に波及して全斗  
も一つの統一した指導を發げておこし、地区も、  
井込、中野の斗争の全部の斗争に対する支援の明確な方  
針を、もつておこなう。

この状況の中で、中野、井込が大きな勝利を取る  
ことは現在の斗争を弱めるだけなく、す今後の非常  
勤斗争をさしむへするだろう。  
この勝勢を前にして全進の現状を深刻に把握し、根  
本的な改善を、基本的問題につじて立ち上げてもせつかり  
とおもことが必要だ。

### 〔労働者階級の眞の解放の 立場からする批判〕

全道に文句をつけているといふことを歎嘆を思ひてゐる人がいるので、先づわれくの立場を明らかにしておこう。

このアロコをよまぬであつて全く斗争の先頭に立つてゐる多くの活動家の諸君が、全道の労働者のためにたゞぐなく、労働者階級のために、その解放のためにといつて自憲をもつて斗つてゐる。しかしその大半といつてよい部分の労働者は、現在の全斗争のあり方、社会底のあり方が、眞の労働者階級解放の立場ではない事を感じており、しかも日本共産黨も明確な指導方針をもたぬか、あるいは指導方針が誤つてゐるといふことを感じてゐる。

そしてそこから「社会党、共産党などに足らず、頼るのはわが全道の支那のみ」という考え方を持つてゐる。

全道中央と社共のあり方についての批判的言葉は、全く労働者階級の現実の斗争の中から生まれた正しい批判であるといへくは考へる。

ゆゑへんが、全道の現状を批判するのは、全道の階級的な前進のためであり、労働者階級の解放への前進のためにほかならない。われわれは、すべての運動、すべての向敵を眞の労働者階級解放の利益という立場で批判し、そのため活動する。そしてすべての自憲し

(三) 非常勤斗争の問題上

### (三)非常事態の戸籍

おとしで、中野、牛込の斗争の三にしてすることを困難にして、中野、牛込の斗争の三にして十分に検討し、非常勤闘争をとりあげることの評議者階級としての意義をつかむことが必要ではないか。

ホニに、二の結果、非常勤斗争は孤立してゐるのが実情だ。東京世にも、非常勤闘争での具体的な要求を出して斗つてゐるところは少ないし、最近では、敵がこの状況を利用して、京橋などのように部分的な要求をのんで中野牛込を意識的に孤立させようとしている。(京橋では非常勤の二一日勤新制が契約更新が阻止された)全体的な斗争の状況の交流や、宣伝が非常に不充分にしか行われていない。そしてホリに、これらのことが許され、批判、改善されない最大の原因は、全干内の先進的活動家、すなはち各支部で非常勤斗争を起し、起つくとしている活動家が全然深い意志統一をしていないしまた非常勤斗争の評価や、恩連について十二一致していない、二である。

各支部の活動家は、色々、支部で全力をあげて斗つておりながら全干全体、東京地区全体のことについては、老練れないでいる。現状だ。東京以外の、静岡、福岡などの活動家について云えば、尚これが更に一つはハツキリ云ふる。

敵は明らかに宿として政策を立て、全干全体に眼をしぼつて改裏をかけていくとき、この状態は止められないべきことだ。

## 四、非常勤労の階級的意義

非常勤採用は、定期法の実施後、次第に増大し、三九早以降、本格的に採用されるはじめた。

このところは、非常勤は、組合外であるところの契約、縦割り採用ができるところを利用して、全工組合に一本化をめざしていくをあくろんむ。

不足している。

全国戦術会議で中斗口、非暴力斗争について「今朝の新聞に中野部便局支部が中心となって、相当郵便物が運れていたことが出ております。……この辺の本部としては非常に説得しなければならぬ争いがあります。然しここ、全国的に見廻した場合に果してある所の争いが、意証的に組まれてゐるかどうかというと、組られないらしい結論にはならないと覺めません。」「このまゝ争いを進めていく、果してどういう事になるかなどといふことが、非常に問題になるのです」（全国戦術会議事録、野上本監査長報告、以下同じ）といふ。中斗が、非常勤玄本務化させなくてはほんない、と考えております。その争いの方針を持つてゐるなら、それを示すことにそ努力者の利益を守る者の仕事だ。これはたゞ、「争いが起つていて、それは全国ではやれないと、いつ考み方せばだ。

今、郵政局は一つ、二つの指導をしておられます。……石原の何處か解説しても、中野郵便局支部の斗争を終らせる旨。並々挑戦してジヤンジャン斗争せろといふのです。そのまま乗つて、こつちは一生懸命斗つてゐる。それはしんぐですが、一、二次になつたが来るかといつて、孤立させて斗争を全滅させてしまえといつて、針にててあります。」「中野支部が群臣これたゞけで犠牲者救援委員が立つることはありませんが、……意証的に高い所がパンと上つた、ところが他のところは争いにならない。そこで、大きな断斧があるのです。だから「敵の出方を見て、こゝで引ひもべきじやないか」といつときトサツと引き込みせ得る力があるかどうかというところが、指導の立場にある人の最も持つてしむければならない東力なんですね。」ある人の意見を述べて、彼等は考えていない。

斗う方針も構えなしに、力がないとか、金がないとか、かあつて争いを止めさせることが、彼等は考えていない。

これが中斗の指導の本質だ。

井二に、中野、牛込があの様に徹底的に争つてゐるのに、いまだに「非常勤問題ではない」といふ。下手にとりあげて恣意におちこんだ「大變だ」という見立方があり、それが中野牛込に対する冷感感

その結果、新規用の多くが非常勤であることから、三二三三七に及ぶ敵に増大し、現むる労働者の中の一を占め、大都市の普通局の外務などでは、しばしば半分に近く採用されてゐる。

これが、非常勤労働者を日給二・三五百円医療保険その他保障は全然なしといつて所思な労働条件で併かせ、標準を向上させる一方、全労組の力を弱める上で力になつてゐることは明らかだ。民間大企業で三〇年貢献から馬鹿工が増大はじめヒートと相まつて、國公關係の駆場で、組合が非常勤の本務化を駆場斗争の中で要求しないところでは、物件費で次々と非常勤を増した。このよう右者の政策から出た非常勤内閣をとりあげることで、全労組が各省の政策と正面から対決することであり、全労組の階級的前進である。

またそれは、日本の労組が階級の組合といふ性格をもたれ、本当に苦しめられてゐる労働者を組合しない、といふ傾向のある中で、他の労組が非常勤、階級内閣をとりあげて斗う與破口ともなるものであると悉くます。

一方皆倒では、全労が解雇三役をひいて斗つてゐるという情勢の中で、現在の斗争を抑え、二五〇円昇給の指舌とも合せく、全般的力を更に弱め、全郵政、全郵便を壊すことを組つてしまつては明らかだ。

しかし、現在、非常勤の問題は、そのよつてとりあげられてはい

ない。

前に述べたように、逆に、非常勤問題が、正面から取上られることが、中野牛久の斗争のある中で避けられてゐる傾向がある。

## 五 現在必要なこと

五 現在必要なこと

現在、斗争は困難に直面してしまふ。  
これを階級的な斗争として前途をせんぬ道はないあるか。これが  
つまり次の実を指摘したい。

第一回、中野、中野が強制力を持たない、全力をあげ戦ひたのが  
かしらんを認める。このオーバーの動向は、今后の非常勤斗争に大きな影響を及ぼすもの  
である。

中野、牛久を裏立つまゝ風送流は、この二回は集中攻撃を受け、  
おのの城東としのじが極めて困難な中にいたるが如きも知れ  
ない。斗争の前進のためには、中野、牛久のオーバー非常勤問題につ  
いて、活動家が徹底的に討伐して、意志を絶するのが必要だとい  
う。活動家が徹底的に討伐して、意志を絶するのが必要だとい  
う。

やしらやの上、十一回決闘から十二回決闘から十三回決闘  
れでしょ講争に終着をいたがはねのたゞよき運命。  
全十中（正しく）斗せ「東京は十一回決闘から十二回決闘  
れ」と公然と云つてゐる。これすなはち「西原とおはなはせば、  
こしき真意にちがひない。十一回決闘は東京は決闘はなくして  
はならぬ」と、大掛かりの条件を示すのである。

## 六、本題の回題上

しかし、二つした場をもつため上、敵に壊さずかに反撃して  
て、志の川が必要だ。志の川が需要だ。

なぜかといふと、活動家の討伐が、全通む必要かのか。  
それは全子房海が、労働者階級の指導部からの指導を全く失つて  
おり、先進的活動家は、社、共産党に信頼を失つていて、もしにかし  
も階級全体の見地から見た分析と判断を失つてしまいかぬ。  
そこから多くの進んだ活動家も、労組組合があれが十分だ、改定  
はめじゆねじ、といふ考え方を持つ傾向が出てゐる。

## 七、全通此回の本題

この日場から、日本労働運動の現状について考へ、全通の指導部  
について考へてみると必要がある。アーチーの指揮下  
金子中野、全通のいわゆる「主流派」は、労働者階級の利益を最  
も守つて斗争をつくこととするのである。自衛した労働者、労組の本質は、労働者階級の立場にはない。  
一九回中野「反共民運」の発印の下に、ヤドモで徹底的とい  
おこなはれた「主流」が全通と全通に分裂させ、当民主主義に反対せしや  
れがちや。

総評「此回」の下にあつて、最も興味は、民同思想を労働者の中  
にふきこみ、「勞働者と「革命」の思想、「アーチーのアーチーの指揮  
の思想から脱却」、「管理者に対する憎しみ」、「資本家階級」として  
の憎しみへん情あることを尋ね、省・資本家との取引の思想をふ  
りかげて、その彼等が、何をしてるのか?

「労働を一死やうにせよやせよ、大變な敗戦も、かせぐやせや」  
東方の労働者が。

東方の労働者たるが、中野、中野が、中野の抗争として、全通の抗争  
をもつてした。

二回、西原再開争求と西原抗争、岸打倒へむかへて、全通  
は十一回決闘をまことにびっかれるべきだつた。

二回この時、斗争を裏立つたのは中野だ、

団女再開を、西原法とまるで結びつけず、西原法の大斗争をサボ

十一、二次のゼネストを、岸、鈴木会談で流したのは中野だ、

中野民同と全通民同こそその張本人なのだ。

二回、二つ、腹立つき、二回をとも見る労働者が感じた

ことである。

しかも、その点、社会党は裏立つたのを裏立つた、共産も裏立つた

ハバクロせず、十一月七日のアカハタで「選舉戦の対抗」のタタ印

を打てるといつ全通の試合主義だった。

その向む、全十中野は、本当に斗つてハバカラかレオに抜いたい」と

三連の日進講習斗争で、始て、日本に何の想議がなく中野を中止

非筋動向調は福岡大会でも出された。

しかし、それを全国抗争として、西原再開の一撃として、中野の

ことは全然ない。

「西原再開をタコツボ」といふが中野の恩恵であり

「田舎再開を斗つの中野」と云ふこと云つて、東京等の活動家の示し

た正しい思想だつた。

だとしたら全通所組の最も効果的といふ活動家、即ち前回の労働  
者の仕事は、全通から、そして日本の労組組合から民同思想を一掃  
して、東の斗争の労働者が本腰に立つて云つてあり、そして、それが一  
つの他の指導下に、労働者の権力のカクトクのため「全通をもつてする」

★ 中野、牛久を強制させなか  
★ 「非常勤斗争を東京は決闘にて、全国の生計の才にせよ、  
二五〇円、昇給賃給、二二〇円の批准と共に、非常勤斗争をもつて  
つて西原再開を斗つて、

★ 中野の不當処分反対、解任を許すな、  
労働者の即時放逐、一切の処分撤回、

238

十一・十二月号第一回は金監禁判決より筆を起筆一セグメントで以降同様運びセラ。

公道之謂也。故曰：「君子義之為美，小人利之為美。」

半山腰的野花，我叫不出名字，但它们开得非常美丽。